

# (公社) 熊本県建築士会 女性部会～かわら版～

第27号 令和4年10月発行

◆住まいづくりの無料相談会が  
リニューアルしました◆



令和4年4月より毎月第4土曜日の無料相談会は建築士会館（県庁南側道向かい）7階に場所を移して開催しています。お気軽にお越しください。コロナ感染の観点から事前予約をお勧め致します。  
※連絡先：熊本県建築士会

TEL096-383-3200 ✉leb03540@nifty.com

※開催場所：熊本市東区神水1-3-7 7階

7月担当相談員：田中弘子さん 森本はるかさん

8月担当相談員：寺坂美紀さん 橋詰美香さん

9月担当相談員：山下瑞穂さん 吉田智佳子さん

ありがとうございました。



## 【報告】令和4年度第31回全国女性建築士連絡協議会 が開催されました！

日本建築学会建築会館ホール（東京都内）で行われ、現地とオンラインで熊本県建築士会館から女性部役員が参加しました。

協議会は2日に渡り、各県の女性部会の活動報告や、被災地報告、また基調講演では早稲田大学の田辺新一氏を迎え、世界の脱炭素への取り組みの中の日本の状況を踏まえた『これからの快適で健康な住まいづくり』についてお話いただきました。



本会の基調講演



熊本県女性部 盛高部長の発表



熊本県よりオンライン参加

わたしたちは「いつでも、誰でも、気軽に」をモットーに全員が参加できる部会活動を目指しています。女性部会の最新情報はFacebookで随時更新中！  
あなたも一緒に楽しく活動してみませんか？



2022/10/2

熊本市村上亜紀

平成28年熊本地震を体験して（2）



前回、約3年前に前震から本震当日までの経験を寄稿させていただいたが、今回は、本震後私が主に携わってきた仕事のことについて述べさせていただきたいと思います。

地震があった2016年、私は熊本市の開発景観課に所属していた。当時私は景観行政を担当しており、新町・古町地区や川尻地区等歴史的な町並みが残る地区での町並み保全等に関する業務を行っていた。

熊本地震による建物の被害は甚大であった。熊本市の住家被害（り災証明交付件数）は、2017年8月現在で13万4000棟を超えている。その中でも歴史的建造物は特に甚大な被害を受けた。

熊本市で把握していた町屋を含む歴史的建造物のうち、地震で倒壊した建物はほとんどなかったが、多くの建物が甚大な被害を受けた。建物が傾斜し、瓦がずれ、土壁が落ちた。建造物の所有者は、建物を修繕して維持していくべきか、解体するか選択を迫られることとなる。相談しようと思っても、誰に相談していいかも分からない。ようやく対応してくれる建設会社を探し、見積もりを頼むと、その金額は数千万円。被災した住家の所有者に対する支援は、修繕しようとした場合、応急修理や災害支援金等で多くても150万円程度。国指定の文化財でもない限り特別な支援は見込めず、所有者は途方に暮れるのである。

このように、当初公費での建造物に対する復旧支援はなかったが、本会のヘリテージマネージャー及び青年部会をはじめ、全国の建築士、文化財の専門家、学識者などから調査等多くの支援があった。各種被害の調査結果等を踏まえ、復興基金等による財源が確保されたのち、熊本県の文化財復旧復興基金や熊本市の町並み復旧保存支援事業などの歴史的建造物に対する復旧支援制度が創設された。しかし、このような支援が創設される前に新町・古町地区にあった町屋約350棟のうち、約100棟程度が1年間で解体された。現在は、約半数となり、町並みは大きく変わってしまった。

今振り返ってみると、一番大切なことは、どれだけ具体的に災害時のことを想像し、普段から備えをしておくことだと感じている。当時は、大規模地震が起こることが全く想像できていなかった。私自身、行政職員として、建築士としてもっと何かできることはなかったのか反省しつつ、今後何ができるのかをこれからも考えていきたい。